



おとな絵本
OTONAEHON

5分間のヒマつぶし



shī-^{シーラ}ra
2

Illustrated: Kohaku Itsuki / Writen: Joe Miyabi



時間が足りなきゃ
買えばいい
～便利なことなのか shi-ra～

「あ～、もう時間がない。明日の朝の会議の企画書がまとまらない」。
ワタシは仕方なく、今回もクレジット会社から5時間だけ買った。
いまや、時間でさえ買える時代なのだ。
おかげで企画書は会議に間にあい、そこそこの評価を得ることができた。

月末、クレジット会社からの請求書。
今月の利用は36時間で利率が×100で、3600時間。
割る24時間で150日分の寿命を使用したことになる。
150日くらい大したことはない。たった半年にも満たないのだから。
ただひとつ問題なのが、寿命を前払いするっていうことは、
顔のしわが少し増えたり、体の思わぬところが痛み出したり、
まあ、そんな代償があるということだ。
36歳のワタシは、意外に年齢以上に見られてしまうことがある。悲しい。

クレジット会社の新商品には、これを回避する選択肢がある。
体力や外見の代わりに、毎月のクレジットを“やる気や集中力”で支払う方法だ。
もっとも、“やる気や集中力”を支払うということは、
毎月の時間クレジットが確実に増えていくことになる。
敵もうまい商売を考えるものだ。



クレオとパトラは、双子の姉妹。

クレオのことをパトラと呼ぶ人もいれば、パトラのことをクレオと呼ぶ人もいる。

ほとんどの人は、どちらがクレオでパトラかはわからない。

そこへある日、男がやってきた。

アントニーというその男は、クレオとパトラの美貌に魅了され、

なんとかふたりを自分のものにしたいと思った。

「はてさて、どちらを妻にし、どちらを側室にしようか」。

アントニーは来る日も来る日もイスにこしかけて頬杖をついて悩み続けた。

何百年、何千年…考え続けたものだから、アントニーはそのまま石になってしまった。

後に、ロダンという男が石になったアントニーを見つけた。

「なんやコレ、けったいな石やな。人のように見えるし…」

ロダンが、こつこつとその人のカタチのような石を削っていくと、

頬杖をついた男の姿が現れた。「ほお、こりやなかなかのモンですな」

ロダンは“考える人”と名付けて自らの作品にした。

それから数百年後、世界中の人々がこの“考える人”を賞賛した。

この男はいったい何を考えていたのか。

人間とは、生きる意味とは…きっとそんなことを考えた哲人に違いない、と。



不思議の国 de
ありんす
～おひとついかがが shi-ra～

吉原の遊女はね、よく「…ありんす」って言葉つかうんですよ。
あれはね、地方から売られてきた女子衆が、方言を使わないように
なんでも「ありんす」をくっつけさせられたんですよ。
「シャンプーもリンスもありんすよ」なんて具合にね。

それにしてもこの世は不思議な国でありんす。
根はやさしくて純粋なのに、人を殺しちゃう人。
勉強ばかりマジメにするけど、それ以外はナニも関心持たない人。
よし、やるぞ！っていつも言ってるけど、ナニもしない人。
遊び人みたいなのに、しっかりお金を稼ぐ人。
才色兼備なのに、若くして死んでしまう人。
ワタシにお任せを、とって国を滅ぼす人。

不思議な人がいっぱいいる国。
なんだかわからない人が、いっぱいいる。
でもそれ以上に、不思議でない人もいっぱいいる。

それなのにみんなに、朝がきて、夜がきて、悲しみがきて、喜びがくる…。
そんな不思議な国、あなたもおひとついかがで、ありんす？



ある王国の王女は、小さなころから人魚になりたいと思っていた。
上半身は美しい人間の女性、下半身はしなやかな魚。
優雅に世界中の海の中を泳ぎ、踊る。そんな毎日ならどんなに楽しかろう、と。

王様と王妃は、言った。
人魚になるなんて、とんでもない。
人間が人魚になるということはとてもたいへんなことなのだ。

魚が人魚になるときは、人間の愚かさやはかなさを知ったうえで
人魚になるからまだいい。
だが、人間が人魚になるということは、魚たちのなにひとつ知らないまま人
魚になるということだ。お前は魚の何をしている？

そもそもこういってはなんだが、お前の容姿は決して美しいとはいいがたい。
人魚になって、どこぞの王子に見初められるなんてことはありえないのだよ。
王女は悲しみにくれ天空を見上げた。

時は流れ、いまは人々が天空にいる王女を見上げている。
シャチホコになった王女を。
「背中が痛い」、と今日も声にならない声をあげている。



そろそろキミも自分自信の殻をやぶりたまえ。
なんて偉そうな声がかときどき聞こえてくる。
殻を破ればいいことがあるのか。

カニやエビは殻を破られる時は、喰われる時だ。
蝉は、7~8年も地中のなかで生活し、
ようやく地上に出て殻をやぶったら、1週間でこの世とおさらばだ。

殻なんてむやみにやぶるもんじゃない。
へたに殻をやぶると、いろんな景色が広がる。
楽しそうなもの、こわそうなもの、おいしそうなもの、いろいろ目にするハメになる。
たいていは、楽しそうで、おいしそうなものに、飛びついてしまうのだよ。

それはいつか、至福の時を過ごせるが、
おぼれてしまうと、大きな代償をはらうことになる。
自分がエビだったか、カニだったか、セミだったか、
はたまた人間だったか忘れてしまう。

いかにして自分の殻を破るか。
そんなことより、破れない堅い殻をまとうことを考えた方がいいかもしれないよ。



(薬局にて)

シーラ「近頃、食欲がないのよね」

薬剤師「それではこのハラヘラシンαはいかがです。善玉菌のバックマンジョーネ・プラスが胃の中のものパクパク食べて、すぐにお腹がすきますよ」

シーラ「この間の薬、食欲がでたのはいいんだけど、太ってきちゃって」

薬剤師「それではこのハラヘラシンβはいかがです。善玉菌のバックマンジョーネ・マイナスの効果で、ほどほどにお腹がへこみますよ」

シーラ「この頃、運動不足のせいかすぐに疲れを感じちゃって」

薬剤師「それならこのウンドウシタミタインはどうです。有効成分のシタミタインが、寝転んでTVを見ていても軽く運動したのと同じ効果を発揮します」

シーラ「このところ気分が沈みがちで…」

薬剤師「そうですね、この気分がカルクナルなんかどうでしょう。有効成分のハピネスオイルが心の中に沈殿した悪玉気分子を無理なく浮き上がらせてくれますよ」

シーラ「おかげでだいぶ体調も良くなったんだけど、確かな幸せ感がないのよね」

薬剤師「それならこのクラヤミールなんてどうです。あ、アナタじゃなくてお友達に飲ませて下さいね」



ワタシはお金持ち。

保有する国も、家の敷地も、部屋も、バスルームも、トイレだって広いんだ。
古くなったお札がたまると、ちり紙交換に出したりする。心も広いんだ。

毎日「ナニをしようか」、猫のひたい程の頭で考える。

といっても、ワタシの猫のひたいは、国立公園の敷地の十数個分ある。
広すぎて考えもまとまらない。で、夜も昼も朝も、昼寝してる。

あまりにヒマなので、世のため人のために活動することにした。

正義のヒロインだ。でも正義ってなに？

正義のために活動していると自称する人々は世界にたくさんいる。

が、彼らはたいていウソつきか、自分がナニをしているのか無関心な輩だ。

どうせならということで、悪の組織に有り余る財力から資金を提供した。

悪の組織の連中は、なによりお金が好き。

そのお金に困らなくなった彼らは、ボランティア活動をするようになってしまった。

ワタシはとりあえず、正義の組織だと言い張る輩にレーザー光線した。

ようやく、世のために仕事した気分。今夜はぐっすり眠れそうだ。



夜が好きな人はたくさんいます。
調べたわけではないけれど、たくさんいます、きっと。

あなたはどんな夜が好き？

恋人とベッドで過ごす夜。
家族と旅行先の、旅館で過ごす夜。
草木の芽吹く香りを、楽しむ春の夜。
花火大会をどどーんと、楽しむ夏の夜。
月明かりの下、好きな小説を読みふける秋の夜。
クリスマスパーティで、仲間と羽目をはずす冬の夜。

ワタシは、アンモナイト。
深い深い海の底で、ゆらゆらと浮遊する毎日。
朝も、昼も、春も、夏も、秋も、冬も、毎日が夜。いつだって夜。
死んだら、もっと夜。

何千年、何億年、死んだって石になって生き続けるの。
石になって、石になって、ようやくある日、朝を迎えることもあるの。
でもね。アンモナイトは夜が好き。

おとな絵本「shi-ra」パート2

<http://p.booklog.jp/book/38585>

著者 : miyabijoe

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/miyabijoe/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38585>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38585>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.